

Players Future First League



PFFリーグ

～すべては子供たちの未来のために～

2024年

2024年 PFFL 概要説明

- ①なぜPFFLなのか
- ②PFFLとは

特徴

- ③試合進行および審判について
- ④ルール
- ⑤指導者の役割

①なぜPFFLなのか

問題点① スポーツが大人のものになっている

昨今の子どもたちを取り巻くスポーツ環境は、正常とは言えない。保護者や指導者の欲求が強く反映されてしまっており、子どもたち自らの意志でスポーツに取り組んでいる状況ではない場合がほとんどである。

現場では指導者の恐怖による指示徹底、大人のみばかりを気にして失敗して怒られないようにプレーしている選手の姿が数多く見られる。とにかく「自チームを勝たせたい」「上位大会にいかなければ推薦が・・・」「自分の子はなぜレギュラーではないのか」など、大人の私利私欲により歪んだスポーツ環境。子供の意志は置き去りにされているのではないか。

「子供達のため」と高らかに謳いながら、大人の事情に子供達を巻きこんでいる状況

保護者のため？ 指導者の名誉のため？
スポンサーのため？ 学校経営のため？



そもそも私たち大人は、 こどもたちにどんな大人になってほしいのか

- △有名な高校に入ってほしい
- △推薦で高校にいれてほしい
- △周囲に自慢できる子供になってほしい
→大人やチームのステータス
- △プロ野球選手になってほしい

- 生きる力を身につけてほしい
- 自立・自律した人間になってほしい
 - ・自分の意見を相手に伝達し、話し合いで問題解決する能力
 - ・主体的に自分と向き合っ物事に取り組む力
 - ・失敗を恐れずにチャレンジする力

私たち大人が子供たちにできることは何か

- 生きる力を身につけてほしい
 - ・自分の意見を相手に伝達し、話し合いで問題解決する能力
 - ・主体的に自分と向き合っ物事に取り組む力
 - ・失敗を恐れずにチャレンジする力
- 自立・自律した人間になってほしい



主体性・社会性を育むことができる環境の整備

目的やルールを整備し、**子供達だけで完結する環境**を作る必要がある。



PFFL

問題点② スポーツを取り巻く環境の変化・限界

野球界には必要性が問われる古い慣習や過大な保護者負担が存在している。
これらが競技人口減の大きな要因となっているのは周知の通りである。
さらに、これから野球経験がある保護者は減少し「野球のことは知らない」という保護者が増えてくる。

従来型のシステムである「指導者・保護者はボランティアで惜しみなく協力すること」を強制されるような環境が永続的には続かない。将来を見据えて、最小限の指導者と子供達だけで運営できる試合環境をつくっていく必要がある。

審判員等の高齢化・減少 保護者負担過多
絶えない保護者間トラブル 指導者の暴言、体罰、恐怖による指導
旧体質の組織運営 忖度の積み重ね

大人の私利私欲を排除した環境
保護者負担は最小限（送迎・観戦のみ）
子ども主体の環境



発育発達の成長段階である子どもたちが
スポーツマンシップを学びながら、スポーツに
純粹に取り組むことができる



PFFL

私たち大人が子供たちにできること

①環境整備

子供達の意志によって成立する子供たちが
主体となって完結できる環境の整備

②スポーツそのものの理解促進（指導者・保護者）

- ・スポーツとは何なのか
- ・心身の発育発達について
- ・こどもの進路選択について

②PFFLとは

主体であるプレイヤーを尊重した
プレイヤーのみで成立するリーグおよびゲーム

- ・ ジャッジ、試合進行、協議（選手が話し合いで解決する）
- ・ ゲームは当然勝敗を競うが「**個人の成長を試す機会**」として捉える
- ・ 春秋リーグ戦による順位付けを行う
- ・ 1日最大3試合（三つ巴）効率的に日程消化
- ・ 成績は自己申告による

特徴

③試合進行および審判

- ・ 球審はピッチャー後方にてジャッジしつつ、塁上でのジャッジも行う
- ・ 線審は近いベンチ側が1名ずつ出すこと（交代可、失敗可）
フェア・ファウル、スイングの有無をジャッジし、球審をヘルプすることも可能
「見ていなかった」などのトラブルが起こった場合は自分たちで解決する

その他（規則に縛られず、あくまで臨機応変に）

- ・ 試合開始は第一試合を9時、第二試合を11時、第3試合を13時とする
→進行によっては早まる場合がある。
- ・ 試合開始30分前にメンバー表を交換し攻守を決める
- ・ イニング間の投球練習は準備ができるまで自由
→サブキャッチャーは相手キャッチャーが行うことも可
- ・ グラウンド整備は参加チームが協力して行うこと
- ・ メンバー表は全選手一覧用紙を用意し、欠席者を斜線で消す
一覧以外の追加選手がいたら追加する（学年問わず）

④ルール

- ・ 7イニング制（1時間50分）
- ・ 使用バットは低反発バットおよび木製
- ・ ボールは新球2個ずつだが、次の試合でも使用することができる（新品に拘らない）
- ・ ロジンバックの使用は自由
- ・ シートノック無し
- ・ 12人打ちまで可(場合によっては増やしても可)
- ・ 攻守の交代は自由（リエントリーフリー）打順は確認しておくこと
- ・ 7イニング終了後同点の場合は引き分け
- ・ イニング最大得点は3（最終回に限り無制限）
- ・ 投球制限 投手は最大3イニング
- ・ 変化球については制限はないが、指導者が注意喚起する（事前説明）
ストレート中心 カーブ・チェンジアップ推奨

- ・ ユニフォームや着用物の規定は設けないが安全性は第一優先に考慮し確保すること
- ・ 不揃いでも可（スパイク、帽子同様）
- ・ 背番号は自由（なしでもOK）

- ・ 順位決め
勝敗数が同様の場合は、直接対決結果によって順位を決定。1勝1敗の場合は総得点数により決定

⑤指導者の役割

- ・ 指導者は選手出場に偏りが生じないか管理すること
- ・ 指導者は選手の健康管理や安全管理に配慮すること
- ・ 保護者観戦ルールや観戦場所の指示



グラウンドは子供達の空間であること
スポーツを子供たちに返しましょう

リーグ戦参加にあたり

PFFLが推奨するスポーツマンシップセミナーの受講は指導者・選手・保護者も受講してください。※その他セミナーあり

リーグに参加する指導者は
PFFLの趣旨を理解して参加し行動し、保護者にも理解を促してください

※試合機会の補填という意味合いのみでの参加はご遠慮いただきます。